



慈しみの碑 (松江 大塚山)

(公財) 中村元東方研究所 / 東方学院

平成 28 年度 前期号 (通号 第 28 号)

東方だより

〒 101-0021
 東京都千代田区外神田 2-17-2
 延寿お茶の水ビル 4 階
 TEL: 03-3251-4081
 FAX: 03-3251-4082
 URL <http://www.toho.or.jp>

Mettasutta
 sabbe satta bhavantu sukhitatta (145d)
 sukhino va khemino hontu (145c)
 sabbe satta bhavantu sukhitatta (147d)
 na paro param nikubbetha (148a)
 natimaññetha katthacinam kañci (148b)
 naññamaññassa dukkham iccheyya (148d)
 etam satim adhittheyya (151c)
 — Suttanipata

中村元 評
 中村活子 書

慈し
 し
 み

一切の生きとし生けるものは
 幸福であれ 安楽であれ 安んずるものは
 一切の生きとし生けるものは幸であれ
 何れとも他人を欺いてはならぬ
 たといことにあつても
 他人を軽んじてはならぬ
 互いに他人に苦痛と予てる
 ことを望んではならぬ
 この慈しみの心をつかい
 しつかりとたもて

目次

『中村元先生 日課経』の真実 ・前田専學理事長2	行事イベント報告 ・仏教文化講演会 他6
理事ご紹介 ・松久保秀胤理事3	平成 28 年度芳名録7
評議員ご紹介 ・高橋堯英評議員3	研究活動 ・科学研究費 基盤研究 (C) インド・チベット密教と曼荼羅の研究 田中公明専任研究員8
東方学院 ・講師のご紹介 本多弘之講師4	・研究所アルバム9
・研究会員の声 中川桐枝さん 長谷川昇さん5	・研究員の声 渡邊親文専任研究員 友成有紀専任研究員10
・今後のイベントのご案内5	新刊紹介 事務局通信

『中村元先生 日課経』の真実

— 理事長ご挨拶にかえて —

前田専學 理事長



中村先生が亡くなって暫く経つてからあちこちで追悼文が出されました。中には先生の日課経について言

及されているものがあり、それ以来私の心の蟬りになって来ています。やはり将来現れる先生の伝記作者に正しい情報を書き残しておくべきではないか、と思うに至りました。

先生のご葬儀は先ずご遺族によって、平成 11 年 10 月 12 日 (通夜式)、13 日 (告別式) の両日にわたって密葬が、本葬儀は、先生のご遺志に従って、東方研究会葬とし、築地本願寺にて平成 11 年 11 月 6 日午後 4 時から執り行われました。

先生は亡くなる前にご遺言状を洛子夫人に残されました。葬儀委員長を前田専學とし、葬儀の際には『三帰依文』『般若心経』『四弘誓願』、それに『生活信条』を、山口瑞鳳氏を発声者として、ご列席の皆さんに唱和して欲しい、と書いてありました。葬儀場のご指示はありませんでしたが、ご遺族のご同意を得て、築地の西本願寺で行うことに致しまし

た。

葬儀のことは万事、当時築地の本願寺に勤めておられた若くて有能な志茂田誠諦師の献身的なご協力のもとに、着々と進行いたしました。ある日二人で四点の編集に取りかかりました。『般若心経』および『四弘誓願』は先生がお使いになっていたお経本から複写し、『三帰依文』と『生活信条』は、洛子夫人が筆でお書きになり、以前からご自宅の応接間の壁に貼っておられたものを複写させて頂きました。

この四点を集めた小冊子に何か名前をつける必要を感じ、苦慮しておりましたところ、先生のご仏壇には『〇〇日課経』という題名の小さな経本がございました。締め切りの時間も迫っておりましたので、躊躇を感じながらも、窮余の一策で、『中村元先生 日課経』というタイトルをつけた緑色の小冊子が出来上がり、ご葬儀の折には、一三〇〇人も参列者全員に配布され、先生が望まれたように全員で唱和いたしました。まことに感動的でした。

しかし『三帰依文』などの三点は当然経文ないし経典といえるものですが、『生活信条』はまったく性質の異なるものです。これは昭和 33 年に浄土真宗本願寺派第二三世大谷光照門主が親鸞聖人七百回大遠忌法要の折に門徒の方々にお示しになったものです。中村先生が恐らく昭和 34 年にハワイ大学の招聘でハワイにおいてになった折、たまたま出向かれた

ハワイの仏教教会でこの『生活信条』が唱和されるのをお聞きになって大変に感激され、それ以来仏前でお唱えになるようになったそうです。

ここにその『生活信条』全文を引用してみましよう。

- 一、み仏の誓いを信じ、尊い御名をととなえつつ、強く明るく生きぬきます。
- 一、み仏の光をあおぎ、常にわが身をかえりみて、感謝のうちに励みます。
- 一、み仏の教えにしたがい、正しい道をききわけて、誠のみのりをひろめます。
- 一、み仏の恵みを喜び、互いにうやまい、たすけあい、社会のためにつくします。

これは明らかに一日本仏教宗派の信者が実践すべき生活信条です。先生であれば決して他の三点の経文と一纏めにして『日課経』と命名されることはなかったと思います。しかしその内容は確かに先生が常に実践されていた事ばかりのように思われます。

しかしそれを、『三帰依文』『四弘誓願』の他、浄土真宗では認められていない『般若心経』と共に、ご自分の葬儀の時に、当然色々な宗派に属すると思われる参列者全員が唱和するようにと遺言された先生の意図は、願いは、どこにあったのでしょうか？ 今となつては、お訊ねできないことを残念に思っています。

理事ご紹介

「酬佛恩講」のこと(上)

松久保秀胤 理事



まつくぼ しゅういん

昭和 3 年 大阪市生まれ
 昭和 13 年 薬師寺 橋本凝胤に入門
 昭和 20 年 旧制松江高校入学
 昭和 25 年 新制島根大学文学部卒業
 法相宗宗務長
 薬師寺副住職
 平成 10 年 薬師寺住職に就任
 平成 15 年 薬師寺長騰
 平成 8 年 藍綬褒章 受章

私が中村元先生の御拝眉を得たのは昭和 36 年 1 月 29 日。東京神田学士会館で催された「世界聖典刊行協会」西蔵大蔵経影印出版完結記念講演会の席でした。小柄の師僧橋本凝胤が西蔵大蔵経影印本発刊を事業とする「世界聖典刊行協会」を設立し、記念講演会で鈴木大拙先生は「蓮華蔵世界を説く」と題され、華嚴唯識思想を説かれました。そして旧制松江高校大先輩の結城令聞先生が、小柄を中村元先生に紹介下さいました。

私は感激した口吻で「明日からインド仏跡を参拝し、最後はアマラヴァティに佛足跡を踏査するのが目的です」と申し述べた時、中村先生は「若い時に生涯の研究テーマを持つことは恵まれた幸せです。気を付けて行って来なさい」とやさしく諭して下さいました。

昭和 35 年、師僧はインド仏跡巡拝顕彰事業を目的として「国際佛教交流協会」(名誉会長・菅興典)を設立して、第一回仏跡巡拝団に加入していただいた時でした。その後、昭和 40 年にインド日本寺建立第一期工事をブツダガヤ聖地において開始し、小柄は工事着工と共に主任として参画しました。翌年二月完成祝典を現地に催し、僧俗一〇〇名賛同者が日本から出席し、インド U・P 州知事参列のもと祝典が執行されました。

事業完成記念に「酬佛恩講」を、小柄自坊薬師寺龍蔵院に設置し、現在に至るまで以下の事業を行ってききました。(以下次号に続く)

評議員ご紹介

ご縁の始まりと、その後

高橋堯英 評議員



たかはし たかひで

昭和 30 年 (1955 年)、静岡県に生まれる。インド国立デリー大学 St. Stephen's College 卒業。M.A. コースを修了後、同大学文学研究科仏教学専攻にて、M. Phil. コース、Ph. D. コースにて学ぶ。Ph. D. (デリー大学) 立正大学仏教学部教授。立正大学学園常任理事(財務担当)、副学長(国際交流・強化クラブ担当)

デリー大学留学中の昭和 52 年 3 月頃だったか、中村元先生が大学の文学研究科で「日本

における最近の仏教研究」という特別講演をされたことがありました。その講演後、東方学院のレターヘッド付きの便箋を、名刺の代わりとして頂戴したのが、中村先生とご縁の始まりでした。その後、故インディラ・ガンディー首相が開いた世界仏教徒会議の折、奈良康明先生のご配慮で中村先生の鞆持ちをさせていただいたことも、有難い思い出です。

デリー留学後、(財)東方研究会の事務局に加えていただき、主に外国からの手紙の返事を書く仕事をさせていただきました。主事補、主事として 10 年間お世話になりました。

立正大学に奉職し、仏教学科で忙しくしておりましたが、この 3 年半の間は、常任理事・副学長として大学運営に参画しております。

今、大学は、研究の場であること、学生の主体的修学意欲を導き出す教育の場であること、そして様々な形で地域社会に貢献することを求められています。中村先生は、東方研究会・東方学院のミッションは、学ぶ志のある者に、セクシヨナリズムにこだわらぬ学問の場を提供し、その学問を通じての真理探究と、その成果を社会還元することにある、と仰っております。時代を先取りした先生のお考えが、研究所・東方学院の皆様のご努力で着実に結実していると拝察します。微力ながら何らかの形で、協力させていただければ幸いです。

東方学院

講師のご紹介



東方学院では、開講講座の編成に随時見直しを加えながら、インド思想や仏教の分野を中心に、時宜にかなったテーマ、話題の講師による連続講座など、東方学院ならではの講座を例年開講しています。今回は、本多弘之先生にお話をうかがいました。

本多弘之 講師

現在の東方研究会本部の事務所は、周知の通り、お茶の水駅にほど近い神田明神の眼前のビルに置かれている。筆者が、この事務所を初めて訪れたのは、今から一〇年ほど前のことであった。

それは、筆者が勤務している「親鸞仏教センター」(当時は本郷向ヶ丘にあったが、今年 4 月に、湯島二丁目に移転した)で、鈴木大拙師によって英訳された『教行信証』を再版(昭和 36 年に翻訳された、初版は昭和 48 年に真宗大谷派出版部から出された)するための作業を進めるために、東方研究会の理事長であった前田専學先生に編集の総監督役をお願いするためであった。ご多忙な時間を割いて



ほんだ ひろゆき

昭和 13 年中国黒龍江省生まれ。昭和 36 年東京大学農学部林産学科卒業。元大谷大学助教授。現在、真宗大谷派(東本願寺)親鸞仏教センター所長。台東区本龍寺住職。

お会い下さった先生は、始めはお断りになったのだが、当方の執拗な依頼にとうとうお引き受け下さった。

前田先生の適切なご判断をいただいて、数々の難関を越えて、平成 24 年にオックスフォード大学出版局(イン・ニューヨーク)から出版することができたのであった。

それが因縁となり、この度、親鸞の『教行信証』の講義を、東方研究会で筆者が担当させていたたくことになったことである。

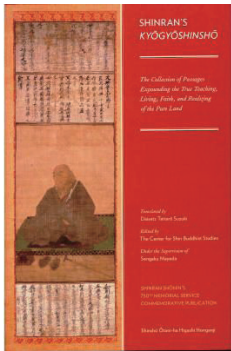
小生は、中村元先生が東京大学インド哲学科の教授をされていた頃、同大学の農学部林産学科を卒業(昭和 36 年 3 月)して、京都の大谷大学に学んだ人間である。六〇年安保闘争の年に卒業したのだが、ふと人生問題に困惑して、しばし生きた仏教思想に触れてみたいと思ったからであった。

たまたま京都に行ってみたら、熱心に仏教思想を思索し語って下さっている先生方に出遇った。それは、清沢満之に端を発する真宗大谷派のいわゆる近代教学(これ

を小生は親鸞教学と呼ぶべきである)の流れの先生方であった。曾我量深・金子大栄・安田理深という方々が、この流れを受けて命がけて求道されていて、その流れの魅力に魅せられて、その学びを通じた親鸞の教えの探求に、愚生もその後の人生を捧げることになったのである。その後、筆者の自坊が東京浅草に所在すること、東京で学びを継続しているわけである。



前田専學理事長、2012 年 9 月於真宗本廟鈴木大拙『英訳教行信証』改訂版刊行報告会にて



前田専學監修 英訳『教行信証』 Oxford University Press

東方学院

東方学院
研究会員の声

中川桐枝さん

(東京本校)



学生時代、私は法政大学
仏教思想研究会に所属して
いました。顧問が泰本融(と
おる)先生でした。当時は
原始仏教が主流であったと
思います。そこで四年間に
私が先生に学んだのは、思
想としての仏教であり、さ
らにはこの思想にどのよう
にたいあうべきなのかとい
うことでありました。

中村元先生が東方学院を
おつくりなられた初期に先
生の講義を拝聴すべく、芝

の増上寺の会館に一年間通いま
したが日々の忙しさにそれ以上
継続できませんでした。その後
三十余年もたって、再び東方学
院に学ぶことができたのは、学
びたいと願う者に広く門戸が開
かれていたからでした。

その時の案内に、釈悟震先
生の「アジア宗教文化論」とい
う講座があり、仏教をアジアの
視点からもう一度学び直したい
と思い、研究会員になりました。
以来、釈先生のもとで、主に中
国、韓国の社会、仏教と文化に
ついて実に真剣で丁寧な講義を
受け続けて、気がつけば十五年
を越えようとしているのです。

長谷川昇さん

(中部校)



門前の小僧

どこでどのような縁を戴い

たのか？ 幼いころお寺の門前
で甘茶をお掛けしたのが最初
にお会いした思い出。その後中
村先生のお顔をTVで良く拝
見するようになりました。売
れっ子でしたね。さて、石の上
にも三年目、佐久間先生のサン
スクリット初級、生意気にも購
読と受講していますが、「エー
ヴァム、マヤー、シュルタム」

これが如是我聞か！ という感
動の余韻の中に未だある程の
可愛い向学心ですから、「研究
会員」という中村先生の叱咤激
励を、門前の迷える小僧とし
ては有難くいただきます。精々
がんばります。服部先生には原始
仏教。お釈迦様の生の声への肉薄
と、その一方でそれを生んだイ
ンドそのものにも心が向かいま
す。武田先生には浄土三部経。
だれが作ったか分からないとい
ミステリーから始まり、一字一句
の検討の講義は、誠に誰がど
のような思いで作ったのか？ と
いう気持ちで深まります。諸講
義の挿入話は子供のお菓子のお
まけのように魅力的です。各ク
ラスとも熱心な質問を許容する

アットホームな余裕があります
が、反面このような素晴らしい講
義を聞きたいと思つて存在を知
らない人も多いのではないかと
も思われます。求むクラスメー
ト。

今後のイベントのご案内

★東方学院・酬仏恩講合同講演会

日時：平成28年12月3日(土)

会場：薬師寺 まほろば会館(奈良
県奈良市)

講師：前田耕作(東京芸術大学専任
講師)

堤博枝(平成28年度アジア諸
国海外研究調査助成金受給
者・東洋大学大学院)

★新春研究発表会

日時：平成29年2月20日(月)

会場：東京ガーデンパレス

講師：未定

◆お知らせ

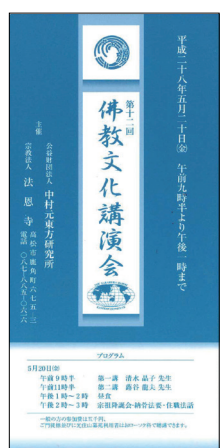
2017年度版「東方学院 受講の
手引き」は、12月中旬より頒布開始
される予定です。

また、受講申し込みは平成29年1月
7日からになります。

行事 イベント 報告

5月20日(金)開催
仏教文化講演会
於 高松・法恩寺

平成22年より香川県高松市の法恩寺と共催で開催されてまいりました、仏教文化講演会が、今年も平成28年5月20日(金)に開催されました。中村元東方研究所からは清水晶子専任研究員が「インドの宗教―ジャイナ教と宗教生活」と題し講演を行いました。また、当日は、日本の童画家シリーズ⑤「夢二が絶賛した美人画の天才!」と題し、路谷龍夫(路谷虹児記念館名誉館長)講師による講演が併せて行われました。



7月2日(土)開催
研究員総会
於 東京・仏教伝導協会

平成28年度研究員総会が、7月2日(土)、東京都港区の仏教伝導協会において実施されました。本年は平成28年度採用の新専任研究員4名を含む、28名の専任研究員が出席しました。前田専學総括研究員の開会の辞に始まり、執行部より研究員に対する通達・要請事項が伝えられました。その後、新専任研究員4名(友成有紀・平野克典・山崎一穂・渡辺親文)が紹介されるとともに、各人の研究につき報告が行われ、活発な質疑が行われました。引き続き懇談会を行い、新研究員と旧研究員の間で意見交換が行われ、盛況にて終了しました。



研究員総会

7月30日(土)開催
神儒仏合同講演会
於 東京・神田神社



神田神社宮司の開会の辞

8回が、7月30日(土)午後1時～4時、神田神社祭務所ホールにて行われました。今回は、共通テーマ「人生の実りの秋をすごそう」で、神道からは、宮田修講師による「人生の実りの秋をすごそう」、儒教からは岡崎満義講師による「新しいホモ・ルーデンス(遊ぶ人)を目指して」、仏教からは渡邊寶陽講師による「老年を生き抜く智慧」と題した講演が行われました。「老」を「人生の実りの秋」ととらえる神儒仏の知恵について人々の関心は高く、出席者は総勢150名、満席の盛会となりました。

神田神社・湯島聖堂・中村元東方研究所の三団体共催、神儒仏合同講演会の第

9月24日(土)・25日(日)開催
ナマステ・インディア
於 東京・代々木公園



東方学院のブースの様子

9月24日(土)・9月25日(日)の両日にわたって、東京の代々木公園、ナマステ・インディア2016が開催され、東方学院も、例年通り参加しました。東方学院セミナーハウスの講師陣・講義名は以下の通りです。普段の学院講義とは異なるアウトドアのテントで、毎講座多くの聴講者にご参加いただきました。また、東方学院ブースでは、24日には東方学院仏像教室の有志によるワークショップ「じやがいも仏を作るう」を運営しました。50名を超える参加者があり好評をいただきました。また27日には専任研究員有志によるワークショップ「デーヴァナーガリー文字で自分の名前を書こう」を運営し、延べ90名を超えるご参加をいただきました。大変な盛況となりました。

東方学院セミナーハウス講師・演目

◎9月24日(土)

森 和也 中村元東方研究所専任研究員・東方学院講師

『印度蔵志』の世界(国学者は天竺の夢を見るか?)

保坂 俊司 中央大学教授・東方学院講師
インドの中のイスラム文化

加藤みち子 中村元東方研究所専任研究員
六道絵と十界図―インドと東アジアの輪廻観

吉村 均 中村元東方研究所専任研究員
龍樹・八宗の祖

◎9月25日(日)
林 慶仁 中村元東方研究所専任研究員・東方学院講師
日本の中のインド討論術

石川 巖 中村元東方研究所専任研究員・東方学院講師
続パドマサンバヴァ伝説の起源について

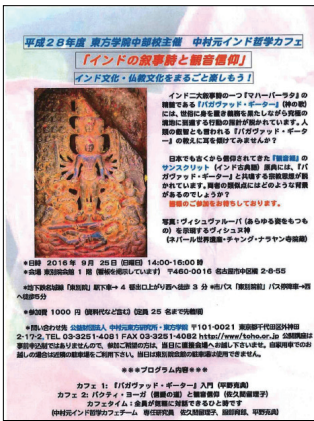
奈良 修一 中村元東方研究所専任研究員・東方学院講師
インドのイメージ:ジヤングル・ブックを中心に (9頁に写真掲載)

9月25日(日)開催
中部校主催公開講座
「中村元インド哲学カフェ」

於 名古屋・東別院会館

平成28年度東方学院中部校主催の

公開講座「中村元インド哲学カフェ」が、東別院会館(名古屋市中区)にて開催されました。「中村元インド哲学カフェ」は、インド文化・仏教文化をまるごと楽しむ、参加型体験講座です。今回は平野克典専任研究員による「『バガヴァッド・ギーター』入門」と佐久間留理子専任研究員による「パクティ・ヨーガ(信愛の道)と観音信仰」の解説が行われた後、「カフェタイム」参加者全員で気軽に対話できるひととき」で、3名の専任研究員(佐久間留理子、服部育郎、平野克典)と参加者が気さくなフリートークを行いました。参加者からはさまざまな質問が飛び交い、楽しくも深遠な議論が繰り広げられました。



中部校インド哲学カフェちらし

平成28年度芳名録(五十音順・敬称略)

本年度も多くの皆様にご支援いただきました。心から御礼を申し上げるとともに、ご芳名を記します。
※平成28年9月30日受領分までを掲載しております。

維持会員

- 赤井士郎 浅井泰範 史跡足利学校事務所 太田光美 小笠原勝治 川崎寿子 川崎大師平間寺 来馬明規 小坂機融 金剛院仏教文化研究所 久保継成 西来寺 下重好正 下田勇人 釈悟震 春秋社 淳心会(日野紹運) 末廣照純 浅草寺 高崎宏子 高松孝行 多田孝正 千葉よし子 中央学術研究所 千綿道人 角田泰隆 奈良康明 成田山新勝寺 西岡祖秀 田原豊道 日本ヨーガ禅道院 念法眞教 羽矢辰夫 仏教伝道協会 法恩寺(藤原敏文) 法清寺 保坂俊司 前田專學 前田式子 松久保秀胤 三木純子 水野善文 三友健容 学校法人武蔵野大学 高尾山薬王院 渡邊信之

賛助会員

- 秋葉佳伸 阿部敦子 有馬頼底 粟野芳夫 入井善樹 入江宥道 石上智康 白井ふじ子 宇杉真 遠藤康 大井玄 大谷光真 太田正孝 小笠原隆元 岡田真美子 岡田行弘 荻山貴美子 菅野博史 北村彰宏 木村清孝 窪田成圓 黒田大雲 小林和子 小林正和 小林守 小峰啓誉 小峰立丸 古村けさじ 小山典勇 在家仏教協会 齋藤明 佐久間留理子 櫻井瑞彦 桜井俊彦 佐藤行教 末木文美士 浄土真宗東本願寺派本山東本願寺 須佐知行 鈴木勇介 鈴木清子 関戸堯海 千賀正榮 大海修一 高野英二 高橋尚夫 田上太秀 武田浩学 竹田軍郁 立花ひろ子 田中良昭 田丸守也 鶴谷志磨子 展勝地 東京書籍 東洋哲学研究所 徳育経営研究所 鳥山玲 長野市南長野仏教会 中村行明 中村久夫 中村保志孝 西内之朗 西尾秀生 西川高史 西宮寛 長谷川恵子 花岡秀哉 花山多賀江 濱川香雅里 濱川量子 引田弘道 久富幸子 一月正人 平井恭子 平岩阿佐夫 福留順子 藤井教公 藤田宏達 法雲寺 堀江順司 堀越教之 森脇宏 的場裕子 水谷俊一 水野善朝 宮元啓一 森祖道 矢島浩志 矢島道彦 山口泰司 山本文溪 由木義文 好井瑞皖 藤井知興

ご寄付

- 桶屋良祐 小林和子 小山典勇 勝本華蓮 千綿道人 松久保秀胤

研究活動の紹介

科学研究費 基盤研究 (C)

インド・チベット 密教と曼荼羅の 研究

田中公明 専任研究員

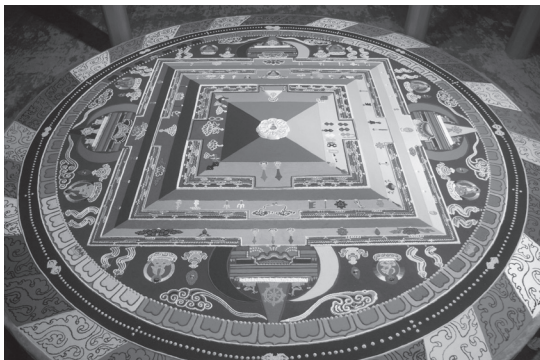
インドで成立した曼荼羅は、中国を経て我が国に伝来し、日本の仏教図像の根幹を形成しただけでなく、その文化全般にも大きな影響を与えました。さらに曼荼羅は、インドからネパール・チベットに伝播し、チベット仏教とともに広大な内陸アジアに伝播しました。これらインドの祖型やネパール・チベット系の曼荼羅の研究は、日本の曼荼羅はもとより、仏教美術全般を研究する上でも重要です。私が代表を務める「インド・チベット密教と曼荼羅の研究」では、インド・ネパール・チベット仏教圏を中心に、遺された作品調査と文献研究を組み合わせ、曼荼羅の源流を解明しています。

なおチベット自治区では、二〇〇八年の大暴動発生以来、外国

人が自由に研究・調査することが困難になっています。そこでチベット仏教圏では、中国内地に編入されている青海省・甘肅省・四川省・雲南省の少数民族地域を中心に、研究調査を進めています。とくに青海省のラジャ寺では、毎年春の大曼荼羅祭に、今なお15種類の砂曼荼羅を制作しています。またその15種の中には、日本の両界曼荼羅を構成する金剛界と胎藏曼荼羅が含まれています。ラジャ寺の金剛界と胎藏曼荼羅は、直径が3m50cm以上あり、インドから招聘されたチベット難民が制作する砂曼荼羅の3倍の大きさがあります。また寺では、砂曼荼羅の制作とともに、種々の密教儀礼が行われており、これらの調査も重要な課題となっています。

いっぽう私は、昭和63年にネパールに留学して以来、サンスクリット語密教文献の研究を続けています。密教や曼荼羅は、近年海外において関心が高まっており、日本の研究成果を世界に向けて発信することも重要です。本年8月には、その第一弾として『梵蔵対照 安立次第論研究』を刊行しました。これはローマ字化テキスト以外の部分を、すべて日英二カ国語として、海外の研究者も参照できるようにしています。

さらにもう一つの課題は、仏教美術の図像データベースの構築です。その手始めとして、写真家の故藤田弘基氏が撮影したチベット・ネパール・インド・パキスタン仏教美術の大判写真をデジタル化しデータベース化する、藤田アーカイブス(仮称)計画を進めています。現在、ガンダーラやスワットはイスラム過激派の巣窟となり、外国人の調査が不可能になっています。このような情勢の中、藤田氏が撮影したガンダーラ美術の写真の資料的価値は、ますます高まっています。このように私は、これまで40年に亘る研究で培った経験を生かし、科研費のプロジェクトを進めているのです。



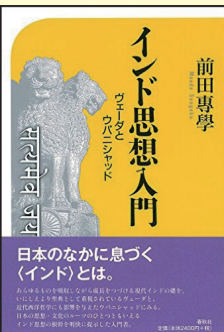
胎藏の砂曼荼羅 (ラジャ寺)

新 刊 案 内

前田専学 著 『インド思想入門 ヴェーダとウパニシャッド』

本書は、IT 産業など現在のインドの繁栄を導いた思想の源流を、いにしえより聖典として重視されているヴェーダと、そこから派生し近代西洋哲学にも影響を与えたウパニシャッドにみる、インド思想の根幹を明快に提示した入門書です。インドとパキスタンが分割される以前の、すなわち日本の南アジアで成立・発展した哲学・宗教思想の源流を探ります。

単行本：A5 版上製・280 頁
出版社：春秋社 言語：日本語
ISBN：978-4-393-13591-4
発売日：平成 28 年 8 月 18 日
定価：本体 2,400 円 (税別)



研

究

所

ア

ル

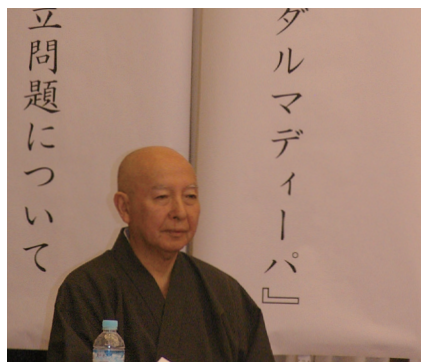
バ

ム

【新春研究発表会】平成 28 年 2 月 22 日



研究発表者



三友健容 教授



青野道彦 発表者

【ナマステ・インディア】

平成 28 年 9 月 24 日・25 日



じゃがいも仏を作ろう



保坂俊司 教授



林慶仁 研究員



加藤みち子 研究員



デーヴァナーガリー文字で自分の名前を書こう

新 刊 案 内

インド人の「力」
山下博司



講談社現代新書
2354

山下博司 著 『インド人の力』

近年、IT エンジニアだけでなく、グローバル企業のトップにつくインド人が増えてきました。本書では、驚異の二桁暗算術から英語力、議論力まで現代インド人に見るグローバル社会の“常識”まで、グローバル時代の最初の勝ち組と呼ばれるインド人の「力」の秘密を語ります。

現代新書・204 頁
出版社：講談社 言語：日本語
ISBN：978-4-062-88354-2
発売日：平成 28 年 2 月 20 日
定価：本体 740 円 (税別)

研究員の声

渡邊親文 専任研究員

現代社会に貢献する 研究を目指して



私は、主に 5 世紀前後のインド大乘仏教思想に関する

文献の解読研究に取り組んでおります。文献の解読研究とは、文献に記述されていることを理解する研究ですが、文献が著された言語を習得すれば、その内容を正しく理解できるのかといえば、そうではありません。文献を正しく理解するためには、文献学、つまり文献を扱う方法論を学び、さまざまな視点から客観的に文献の記述を解釈する技能が必要です。これを解釈学 (Hermeneutics) といいます。解釈学では、聖典や文献などの

テキストと読者との間には時間・思想・表現上の「距離」があり、それらの「距離」を埋めるためには、テキストが著された時代の社会や思想、そしてテキストにおける文体や表現の意図を理解すること等が重要であると考えます。

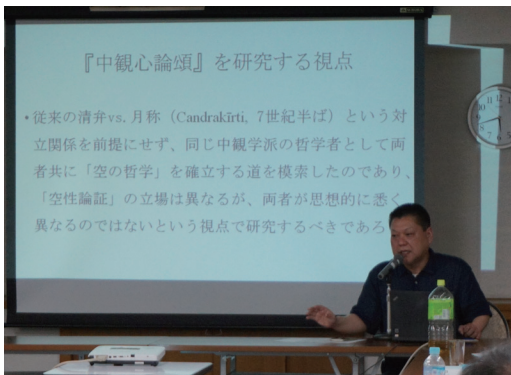
解釈学は古代ギリシャの時代にまで遡る学問で、その研究は西洋哲学において盛んに行なわれています。しかし、近年アメリカやカナダでは、仏教研究においても、解釈学が取り入れられ、仏教解釈学 (Buddhist Hermeneutics) という新しい研究領域が成立しました。

仏教解釈学は仏教文献を正しく解釈することが目的ですが、その根底には、現代社会に生きる私たちが仏教文献から何を学び、それをどのように活かすのかという問題提起があります。私自身も、仏教を学ぶ者として、また中村元東方研究所の専任研究員として、現

代社会に貢献する研究を目指し、
仏教文献の解読に取り組みます。

渡邊親文 わたなべ ちかふみ

昭和 42 年生まれ。M.A., Ph.D. インド国バンダルカル東洋学研究所にて 1 年間の研究に従事。著書には *Asaṅga's Mahāyānasamgraha, Chapter Three* や *Sanskṛita-sādhutā, Goodness of Sanskrit* (共著) 等がある。学術論文は、“A Translation of the *Madhyamakahrdayakārikā* with *Tarkajvālā* III. 137–146”、“*Bhāviveka* on Invalidations by *pratyakṣa* and by *pratīti*”、“*Bhavya's* Concept of *Nirvāṇa*” 等多数。



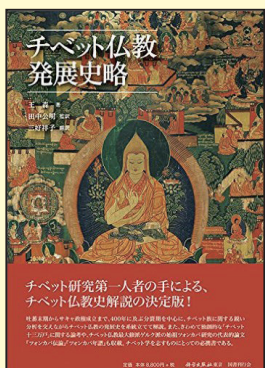
平成 28 年度研究員総会で発表する筆者

新刊案内

王森 著、田中公明 訳 『チベット仏教発展史略』

吐蕃末期からサキヤ政権成立まで、400 年に及ぶ分裂期を中心に、チベット族に関する鋭い分析を交えながらチベット仏教の発展史を系統立てて解説したチベット仏教史解説の基本書。また、きわめて独創的な「チベット十三万户」に関する論考や、チベット仏教最大宗派ゲルク派の始祖ツォンカパ研究の代表的論文『ツォンカパ伝論』『ツォンカパ年譜』も収載しています。

単行本：370 頁
出版社：国書刊行会 言語：日本語
ISBN：978-4-336-05969-7
発売日：平成 28 年 5 月 20 日
定価：本体 8,800 円 (税別)



研究員の声 友成有紀専任研究員

伝統と革新と

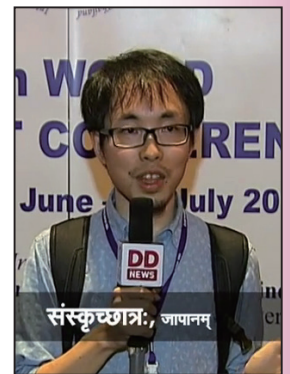
インドの優れた伝統的学問と言えば、最近では数学のイメージが強いでしょうか。インド式数学のインパクトが、IT立国を目指す現代インドに重ねられ語られました。インド式数学(ヴェーダ数学)は、紀元前千二百年ころに最古層が成立したとされるヴェーダ聖典を正しく理解し、祭式を正しく実践するための各種補助学とも大変縁の深い学問です。

私が研究対象としているインド古典文学もこの補助学のひとつ。中村先生のお言葉を借りるなら、「古代インドの文化的所産の中で、他の古代文化圏のそれに比べて、自らの優越性を誇負しているもの」であり、ひよつとしたら、インド式数学よりもITに近い部分があるといえるかもしれません。古典文学の最大の特徴は、文法の規則集全編が特殊なメ

タルールに支配された一種の圧縮

言語によって記述されていることです。伝統的文学者は、由緒正しい、古き良き言葉遣いのプロフェッショナルとして、この方法論に精通し、完全に記憶された規則集に依拠して言葉の正しさを語る——この「正しい言葉」は、後に「サンスクリット」という名前と呼ばれるようになりました。コンピュータ・プログラム……とまでは残念ながら言えないと思いますが、それに通ずるような情報処理技術のアイデアがブツダにほど近い時代にはもうフル活用されていたことに素直に驚きを感じます。

しかしその一方で、言葉は生き物、いつでもどこでも次々と例外が生まれます。精緻な文法体系でも説明できない語形……その全てを「正しくない」と切り捨てることは、果たして正しいのでしょうか



インド国営放送サンスクリットニュース番組のインタビューを受ける筆者

か。伝統文化と社会の変化との板挟みにされた伝統的文学者たちは、ときに規則の改変・拡充を行いつつも、最も好んだ解は、舌を巻くような柔軟な思考力によって理論付けられた「解釈」でした。煙に巻かれているような気もしますが、伝統と革新、硬いと柔らかい、どちらの側面も手放されずに共存する——そんな在り方を体現したかのような古典文学、その魅力は尽きません。

友成有紀 ともなり ゆうき

長野県生まれ。信州大学人文学部卒、東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了(博士(文学))。日本学術振興会特別研究員DC1、PDののち東方研究所専任研究員。近刊の論文に‘*ākṛtigana: Mother for Grammatical Restrictions*’ (Vyākaranapariṣchā, DK Publishers Distributors Pvt. Ltd., 2016)。

新刊案内

末木文美士 著 『親鸞—主上臣下に背く』

親鸞は、法然の専修念仏に帰依し、弾圧に抵抗して、独自の信仰と思想を展開させた、日本で最も親しまれている仏教者です。本書では通説を批判しながら、『教行信証』などに見える思想とその人物像を新しい目で解明します。

単行本：340頁
 出版社：ミネルヴァ書房 言語：日本語
 ISBN：978-4-623-07581-2
 発売日：平成 28 年 3 月 10 日
 定価：本体 2,800 円 (税別)



事務局通信

【編集部より】

東方だよりは、読者の皆様からのご意見・ご要望をいただき、よりよい誌面にしていく所存です。なお、ご連絡は手紙にて承っております（宛名面に「東方だより編集部宛」とご記入願います）。

当研究所の活動にご賛同下さる皆様へお願い

公益財団法人中村元東方研究所は、創立者中村元の理想を実現するため活動する非営利の文化事業財団であり、その運営はご理解ご協力いただける皆様からのご寄付により成り立っています。当研究所では各種会員を設定して、活動趣旨にご賛同いただける皆さまの積極的なご支援をお願いしております。

(1) 一般寄付

一般寄付は会費と異なり、金額や期限等を設定せずに、随時受け付けさせていただいております。お寄せいただいた寄付金は、当法人が取り組んでいるさまざまな活動に広く活用させていただきます。

(2) 継続ご支援（維持会員・賛助会員）

当法人の活動に賛同し、継続的に支援して下さる会員も随時募集しています。

- ・維持会費：一口 年 50,000 円
- ・賛助会費：一口 年 10,000 円

※上記いずれかをお選びいただき、出来れば複数口でご支援賜れば幸いです。

(3) 普通会員：年会費 7,000 円

普通会員にも、維持・賛助両会員と同じく、定期刊行物『東方』の他、催し物、会合等のご案内をお送りいたしますが、年会費に税の優遇措置は適用されません。

【所得税の免税について】

当法人は内閣府の認定を受け、平成 24 年 7 月 2 日をもって、従来の財団法人から「公益財団法人」へと移行いたしました。公益財団法人へ移行したことに伴い、上記 (1)、(2) の一般ご寄付及び維持会・賛助会の会費は、下記の通り税制上の優遇措置が受けられます。

※所得控除・・・所得控除は、所得金額に対して寄付金額の大きい場合に減税効果が大きくなります。「その年の寄付金額－2,000 円」が課税される所得金額から控除されます。控除できる寄付金額はその年の総所得金額等の 40% 相当額が限度となっております。

公式ホームページのご案内

東方研究所及び東方学院の公式ホームページでは、さまざまな情報が随時更新されております。是非ご覧下さい。

ホームページ URL : <http://www.toho.or.jp>

中村元東方研究所

検索

- ▶ 当研究所の目的・理念・あゆみ
- ▶ 中村元博士の略歴・著作文献目録
- ▶ 東方学院（開講科目、講師紹介、著書紹介）
- ▶ 専任研究員紹介、書籍案内
- ▶ 公開講座、イベントのお知らせや開催レポートなど



東方だより 平成 28 年度前期号 (通号第 28 号)

平成 28 年 10 月 10 日発行

【編集 / 発行】公益財団法人中村元東方研究所 本部事務局 (東京)

編集責任者：釈悟震

〒 101-0021 東京都千代田区外神田 2-17-2 延寿お茶の水ビル 4 階 TEL: 03-3251-4081 FAX: 03-3251-4082